

自己評価結果公表シート

認定こども園 小樽オリーブ幼稚園

1. 園の教育目標

2020年度

本園はキリスト教の信仰に立って、神を畏れ、隣人を愛して、思いやりのある子ども、健康な子ども、自主性のある子どもを育てることを目標とする。

園児一人ひとりに対して、神と人ともに愛されるものとして、成長し、心豊かな人間性を持つよう育成することを目指す。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を基に設定した学校評価の具体的な目標や計画

新型コロナ禍の中ではあったが、例年通り基本的には今年度も、評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
幼稚園教育要領の精神を踏まえ、当園の教育理念・教育方針にしたがい編成している。	教育課程を踏まえ園長以下教諭が自覚的に取り組りくんでいる。非常勤教諭を含め、当園の教育知念や方針の理解に努め、教育課程の編成に取り組んだが、新型コロナ禍の中で状況に応じて変更しながら対応した。
教育要領、教育課程、子どもの実態などをもとに考えて作成している。	毎年立てる指導計画に従って、子どもの実態に即した内容を組み立てるように努めているが、状況の変化が大きかったこともあり、臨機応変に対応することも多かった。少人数であることを生かして、関わりを豊かなものにするよう計画を作成している。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	ウイルス対策として消毒、マスクの着用、体温の記録など以前はしていたかった対策を採りつつ、日々の記録をしっかりとし、振り返りをしつつ、実態を把握し、月案、週案の中に必要な計画を立てつつ日々の保育にあたっている。
学期ごとに各クラスの経営の成果と課題を報告する。	各クラスの月や週の目標を定め、日々達成状況を把握し、振り返りつつ、善かったところは継続し、改善すべきところを改善しつつ、取り組めることを考慮しながら、新型コロナ禍で受けた影響を考慮して、場合によっては適切に変更するよう努力していた。
子どものよさを認めて評価しようとしている。	一人ひとりの子どもの様子を把握しつつ、教諭がそれぞれの子どもを見て、保育の仕方を工夫し、特に支援を必要としている子には非常勤職員を含めて対応するようになっている。

遊びを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	子どもたちが自発的に遊びに取り組み、発展的に友だちと協力して遊べる環境を整え、友だちと遊べるよう配慮しつつ関わりを持つよう工夫し、子どもたちが遊びに広がりを持てるようにかかわり方を考慮していた。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	身に付けられる生活習慣を自分から取り組んで身に付けられるよう促すなどしている。生活習慣が身についていない子に対しては無理にさせることはせず、自分からしようと思えるように忍耐強く関わっていた。
全職員が一丸となって、全園児の保育を行うよう連携する。	保育者の人数が少い状況が続いているのと、新型コロナ禍の中で行事など中止したり、取り組みを変更するなどあったが、非常勤の教諭とも連携し、園の方針を実現できるよう工夫しつつ、よりよい保育環境を形成し合うように努力している。
各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする。	職員数が不足していることや感染予防などの観点から、外部の各種研修会や研究会に参加するのが困難であった。オンラインでの研修に辛うじて対応出来たものもあった。園内研修などが出来なかったことも多かった。
園だよりや合同研修会を通して、幼稚園の情報を発信していく。	園の教育方針や取組みを園だよりに記載することは継続出来た。新型コロナウイルス感染予防について保護者にも情報が伝わるように文書を多く出した。
保護者との係りを密にし、幼稚園で行われていることが保護者に伝わるようにしていく。	参観日、行事などが軒並み中止となって、保護者と接する機会が減少した。保護者との個人面談は行った。その少ない機会を通して子どもの様子を伝えた。日頃の取り組みを送りのバスの乗り降りの際など伝えることは継続している。園だより以外にも、ブログ、インスタグラムなどを通して様子を知らせている。
園の運営状況や規則などを把握できるように園内で公開する。	園の運営についての話し合いの機会を持つよう時間を取った。また、職員の配置などについての話し合いのときも持つことが出来た。職員の話し合いのなかでも、経営状態を把握してもらうように図っている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	働き方の改革が言われている中で、話し合いをし、考えるときを持つこととなった。問題があるところは話し合いをもって対応を協議し、課題への取り組みが出来るものから取り組んでいくこととした。教諭不足が続いていて、正職員の負担が大きくなっていることを踏まえて、非常勤の教諭にも最大限の時間を関わってもらうようにしている。足りない点が見受けられるところは、話し合いをして改善出来る部分は取り組んでいる。 施設面では園庭を補修し、グランド状に改善した。また一部屋の内装をすることが出来た。遊具でも不具合のあるものは修繕をした。子ども達が安心、安全に遊べる環境になるように運転手も含めて努力しており、概ね良い環境を整えている。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
情報公開の方法	新型コロナ禍で出来なかったことが色々あったが、来年度に向けて体制を立て直す努力をする必要がある。また、園だよりや参観日などを通して保護者への理解促進への取り組みを継続していく。日常の保護者との接触が出来る機会には積極的に伝えていく。HPは必要に応じて、ブログは毎日更新しており、インスタグラムも時々更新して保護者が関心をもって見られるように図る。
自己点検、自己評価	各自日頃から教諭不足の中で、負担も大きい中で、互いに自己についての認識を新たにしつつ、情報を共有し、少しの時間でも話し合いの時間を確保することに努力する必要がある。
指導計画の編成	新型コロナ禍で中止したり、変更したりしたことなどを、どのように取り戻していくのかを園の方針に基づいて再編し、取り組む必要がある。また、従来通り環境や子どもの成長に係る内容の充実を図り、それに取り組んでいるので、その取り組みを充実出来るようにしていきたい。

6. 学校関係者評価委員会の意見

別紙、委員会報告書に記されている。